

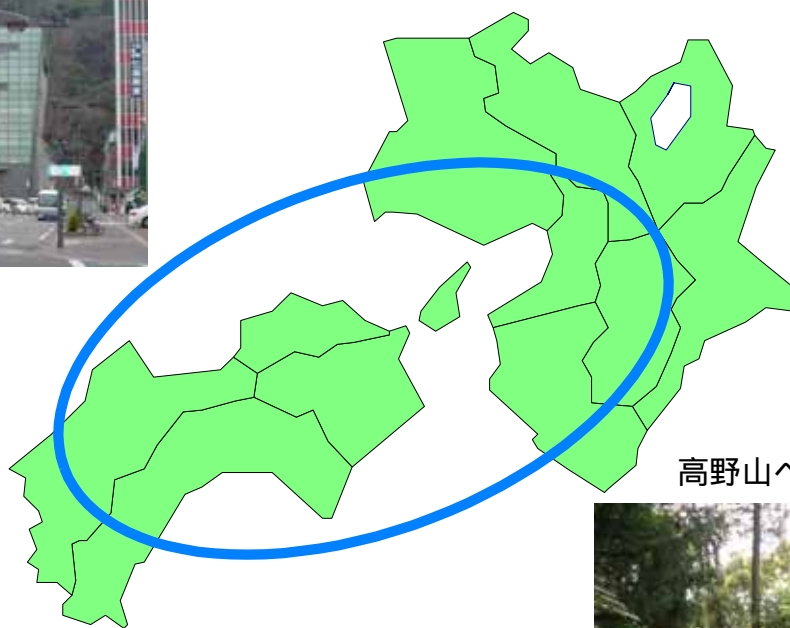
平成 16 年度

# 紀淡海峡交流会議 地域交流研究事業

～ 紀淡海峡交流圏の「源平の道」を巡る～

## 報告書

阿波おどり会館



高野山へ続く町石道



平成 17 年 3 月

紀 淡 海 峡 交 流 会 議

## 目 次

1 .平成 16 年度研究事業の概要.....	1
( 1 ) 研究事業の目的 .....	1
( 2 ) 研究会のメンバー.....	1
( 3 ) 研究会の開催概要.....	2
2 . 源平の物語の中での紀淡海峡交流圏の位置.....	3
3 . 源平の道を歩く.....	5
( 1 ) 平家、奇襲攻撃にあう・・須磨(兵庫県).....	6
( 2 ) 義経、嵐の中を出発・・大阪(大阪府).....	9
( 3 ) 義経、上陸後ただちに進撃・・小松島(徳島県).....	12
( 4 ) 嗚呼、哀れなるかな平家・・屋島(香川県).....	15
( 5 ) 安徳天皇、伝説の地へ・・越知(高知県).....	18
( 6 ) 弁慶、父湛増に援軍を要請・・田辺(和歌山県).....	21
( 7 ) 義経と静、永遠の別れ・・吉野(奈良県).....	24
4 . 源平ゆかりの資源をさらに探す.....	27
( 1 ) 大阪府.....	27
( 2 ) 兵庫県.....	29
( 3 ) 奈良県.....	33
( 4 ) 和歌山県.....	35
( 5 ) 徳島県.....	36
( 6 ) 香川県.....	37
( 7 ) 高知県.....	39
5 . 紀淡海峡交流圏の源平の道を考える.....	41
( 1 ) 歩いて考えたこと.....	41
( 2 ) 紀淡海峡交流圏としてできること.....	43

# 1. 平成 16 年度研究事業の概要

## ( 1 ) 研究事業の目的

紀淡海峡交流会議地域交流研究会は、広域的な視点で紀淡海峡交流圏の魅力や交流・連携資源を発掘するとともに、その効果的な活用方策等についての検討を行うことを目的とするものである。

当研究会では、平成 14 年度以降、紀淡海峡交流圏域の特徴である「巡り」を活かした交流のあり方を検討し、これからの「巡り」の方向性を模索してきたところである。

平成 16 年度は、これまでの検討結果を踏まえて、紀淡海峡交流圏の「巡り」の魅力を新たな切り口で情報提供する仕組みを検討するため、「源平の道」にテーマを絞り込んで紀淡海峡交流圏の「巡り」の検討を行った。

### 平成 16 年度研究会のポイント

紀淡海峡交流圏の「巡り」の魅力を新たな切り口で情報提供する仕組みを検討する。

テーマの絞り込み

- ・ 「源平の道」をテーマに、紀淡海峡交流圏の巡りを検討

## ( 2 ) 研究会のメンバー

研究会のメンバーは以下のとおりである。

### 紀淡海峡交流会議地域交流研究会

座長	山陰加春夫	高野山大学教授
紀淡海峡交流会議会員	大阪府	兵庫県
	奈良県	和歌山県
	徳島県	香川県
	高知県	(社)関西経済連合会
	四国経済連合会	大阪府商工会議所連合会
	兵庫県商工会議所連合会	奈良県商工会議所連合会
	和歌山県商工会議所連合会	徳島県商工会議所連合会
	香川県商工会議所連合会	高知県商工会議所連合会

### ( 3 ) 研究会の開催概要

平成 16 年度の地域交流研究会は、以下のとおり 2 回開催した。

#### 第 1 回研究会

- ・開催日時：平成 16 年 9 月 9 日
- ・開催場所：高野山大学
- ・概要：1 . 基調講演
  - ・講師：高野山大学教授 山陰加春夫先生
  - ・テーマ：『巡り』と信仰 - 霊場高野山の場合 -
- 2 . 資料説明及び意見交換
  - ・テーマ：紀淡海峡交流圏の「巡り」の魅力を伝える  
～「巡り」の魅力の多面的情報提供～
  - ・意見交換の要点
    - ・紀淡海峡交流圏の「巡り」の魅力を伝えていくことが大事である。
    - ・テーマを絞り込んで、歩いて巡る道を検討する。
    - ・今年度のテーマとして、「源平」を扱うこととする。

#### 第 2 回研究会

- ・開催日時：平成 17 年 2 月 15 日
- ・開催場所：阿波おどり会館
- ・概要：資料説明及び意見交換
  - ・テーマ：紀淡海峡交流圏の「源平の道」を巡る
  - ・意見交換の要点
    - ・源平をテーマにすると、紀淡海峡交流圏がつながり、圏域として「巡り」の物語性を持っていることが確認できた。
    - ・紀淡海峡交流圏の「源平の道」を情報発信することが大事である。

以下では、今年度の地域交流事業の成果として、「紀淡海峡交流圏の『源平の道』」について報告する。

## 2. 源平の物語の中での紀淡海峡交流圏の位置

源平の物語の中枢を成す

源平の物語の舞台としては、紀淡海峡交流圏以外にも、京、奥州、鎌倉、長門の壇ノ浦などがあげられるが、この中で紀淡海峡交流圏は源平の物語の中枢を成し、この圏域なしには源平の物語は成り立たない。

### 源平の物語の略年譜

年月	紀淡海峡交流圏の事柄	その他
平治元年(1159)		平治の乱起こる。源義朝が拳兵、清盛に敗れる
永暦元年(1160)		頼朝、伊豆国蛭ヶ小島に配流される
嘉応元年(1169)		義経(11歳)、この頃鞍馬寺に入る
承安4年(1174)		義経(16歳)、この頃奥州へ
治承4年(1180)4月		以仁王、源頼政が反平氏の拳兵、宇治川の合戦で敗れる
治承4年(1180)6月		福原京遷都
8月		頼朝が伊豆で拳兵
治承4年(1180)11月		清盛、福原の都を京に戻す
寿永2年(1183)7月		義仲が倶利伽羅峠で平家を破る、入京
7月		平氏が安徳天皇を奉じ都落ち
寿永3年(1184)1月		範頼・義経が宇治川で義仲を破り入京
2月	義経、鶴越から一の谷の平家を急襲	
2月	維盛、屋島を逃れ出家後、那智沖で入水	
元暦2年(1185)2月	義経、梶原景時と逆櫓について争う。義経、嵐の中を摂津国渡辺津を出航	
2月	義経、阿波国勝浦に上陸、屋島へ	
2月	義経、屋島の平家を奇襲	
2月	平家、屋島・志度から長門へ向かう	
2月	安徳天皇、屋島から阿波国を経て、四国山地へ	
2月	弁慶、父湛増に援軍を要請、熊野水軍が壇ノ浦に出陣	
3月		壇ノ浦の戦い、平家滅亡
5月		義経、宗盛親子を護送して鎌倉へ向かうが、頼朝は鎌倉入りを許さず
文治元年(1185)11月		義経、頼朝の追討を逃れ京から西国へ
11月	義経、大物浦から出航するが、嵐のため住吉の浜に漂着	
11月	義経、静と弁慶らを連れて吉野へ	
11月	義経と別れた静が吉野で捕らわれる	
文治3年(1187)2月		義経が北陸路を経て奥州へ入ったと伝わる
8月	安徳天皇、横倉山行在所完成に伴い移られた	
文治5年(1189)4月		藤原泰衡が義経の居館を急襲。義経は自害。31歳。
建久3年(1192)7月		頼朝、征夷大將軍となる

## 巡りの物語性を持つ

源平の物語の流れに沿うと、紀淡海峡交流圏を構成する府県はつながり、圏域として巡りの物語性を持っていることが分かる。

寿永3年、義経は一の谷の戦いで平家を奇襲攻撃した。平家は西国に退き、頼朝は範頼には西国行きを命ずるが、義経には命は下らなかった。義経が命を受けたのは翌元暦2年である。義経は、頼朝が送った梶原景時と逆櫓をめぐって口論となり、景時には告げずに嵐の中を摂津・渡辺津を出航した。阿波・勝浦に上陸した義経は、上陸後ただちに屋島に向けて進撃した。翌朝屋島に到着した義経は、ここでも平家の背後から奇襲戦法で攻めた。屋島の合戦で敗れた平家の軍は長門に向かうが、安徳天皇は阿波を経て四国山地に向かい、高知の越知に潜幸したと伝えられている。一方、屋島の戦いの後、弁慶は熊野別当の父湛増に源氏への援軍を要請する。湛増は紅白の鶏を戦わせて源氏への援軍を決め、熊野水軍を壇ノ浦に出陣させた。壇ノ浦の戦いで平家を滅亡させた義経は、賞賛されるどころか、頼朝から冷たく扱われ、ついには刺客を送られる。義経は京から西国へ向かうため大物浦（尼崎）から出航するが、嵐に阻まれ、静や弁慶などわずかな家来とともに吉野に逃げ込む。そして、義経は静に別れを告げ、さらに奥深くに向かう。

### 紀淡海峡交流圏の「源平の道」の物語性

年月	紀淡海峡の「源平の道」テーマ	備考
寿永3年(1184)2月	「平家、奇襲攻撃にあう……須磨」 (兵庫県)	・一の谷で、義経が平家を奇襲攻撃
元暦2年(1185)2月	「義経、嵐の中を出発……大阪」 (大阪府)	・義経が屋島の平家追討のため摂津国渡辺津を出発
2月	「義経、上陸後ただちに進撃……小松島」(徳島県)	・勝浦に上陸した義経はただちに屋島に向けて進撃
2月	「嗚呼、哀れなるかな平家……屋島」 (香川県)	・屋島の合戦で平家は敗れ、平家軍は長門国へ
2月	「安徳天皇、伝説の地へ……越知」 (高知県)	・安徳天皇は屋島から阿波国を経て越知町へ
2月	「弁慶、父湛増に援軍を要請……田辺」(和歌山県)	・屋島の合戦後、弁慶は父湛増に援軍を要請
文治元年(1185)11月	「義経と静、永遠の別れ……吉野」 (奈良県)	・頼朝に追われた義経と静は吉野で別れる

### 3 . 源平の道を歩く

前述の圏域としての巡りの物語性を活かして、府県ごとに所要時間 2 ~ 3 時間の「源平の道」を設定した。府県ごとの「源平の道」のテーマと見どころは、以下のとおりである。

#### 「源平の道」の概要

府県名	「テーマ」と見どころ	所要時間
兵庫県	「平家、奇襲攻撃にあう……須磨」 平家の繁栄が崩れはじめる激戦地。源平ゆかりの須磨寺（源平の庭、平敦盛の首塚、義経腰掛けの松、弁慶の鐘等）、義経が奇襲をかけた一ノ谷、源平史跡戦いの瀆碑や敦盛塚がある須磨浦公園	約 2 時間半
大阪府	「義経、嵐の中を出発……大阪」 嵐の中を勇猛果敢に進む義経の出発地。源義経が梶原景時と論争した逆櫓の松跡、屋島に向かった義経が大波にさらわれ流れ着いたという逸話が残る判官松跡、義経が必勝祈願した大和田住吉神社	約 2 時間半
徳島県	「義経、上陸後ただちに進撃……小松島」 義経の勢いを感じる進撃の地。義経上陸の碑、義経像がそびえ立つ旗山、上陸地から屋島に向けて進軍した道・義経ドリームロード	約 3 時間
香川県	「嗚呼、哀れなるかな平家……屋島」 源平合戦の激戦地。義経の身代わりとなって矢を受けた佐藤継信の墓、義経が継信のために贈った名馬・太夫黒の墓、那須与一が的中を祈った祈り岩・足場を固めた駒立て岩、安徳天皇社、源平ゆかりの壁画や庭を有する州崎寺	約 3 時間
高知県	「安徳天皇、伝説の地へ……越知」 安徳天皇が潜幸したと伝えられる地。壇ノ浦で入水したと言われる安徳天皇が屋島檀の浦から阿波国に逃れ四国山地を経て高知県越知町に潜幸していたことを伝える陵墓が、宮内庁により参考地とされている。	約 3 時間
和歌山県	「弁慶、父湛増に援軍を要請……田辺」 義経を支えた弁慶誕生の地。弁慶生誕地の碑がある大福院、義経への援軍を要請する弁慶にこたえて父湛増が紅白の鶏を戦わせた闘けい神社、熊野水軍が出陣した扇ヶ浜、弁慶の腰掛石がある八坂神社	約 2 時間
奈良県	「義経と静、永遠の別れ」 頼朝に追われ義経が静との別れを決意した地。義経が静と潜居した吉水神社、追っ手に捕らわれた静御前が舞を舞った勝手神社、義経が弁慶らと隠れた義経隠れ塔	約 3 時間

( 1 ) 平家、奇襲攻撃にあう.....須磨

一口メモ： 西国への進軍.....寿永3年(1184) 木曾義仲を破り入洛した範頼・義経連合軍はすぐに西国に向けて平家討伐に向かった。範頼軍は西国街道を西に、義経軍は丹波路を向かい険しい山岳コースから一の谷を目指した。

一の谷の合戦.....寿永3年(1184)2月、義経は先頭を切って高さ200mの断崖を一気に駆け下り、後から70騎が続いた。不意をつかれた平家軍は大混乱に陥り、海上を屋島に逃走した。

熊谷直実と平敦盛.....熊谷直実は、海に逃げる平家の若武者を発見し、押し倒してみると、まだ自分の息子と同じくらいの若者であった。助命しようと思ったが、後から味方の軍勢が押し寄せてきたので、泣く泣く首を切った。この若武者は持っていた笛から敦盛を分かった。16歳であった。直実は自責の念にかられ、後に出家した。

見どころ：平家の繁栄が崩れはじめる激戦地。源平ゆかりの須磨寺(源平の庭、平敦盛の首塚、義経腰掛けの松、弁慶の鐘等)、義経が奇襲をかけた一ノ谷、源平史跡戦いの濱碑や敦盛塚がある須磨浦公園

コース：所要時間2時間半程度

山陽須磨浦公園駅 (徒歩2分) 敦盛塚 (徒歩3分) 一の谷合戦800年の碑 (徒歩10分) 源平史跡戦いの浜碑 (徒歩10分) 安德帝内裏跡伝説地 (徒歩25分) 平重衡とらわれの遺跡 (徒歩10分) 須磨寺 (徒歩10分) 山陽須磨寺駅

「平家、奇襲攻撃にあう.....須磨」コース





## 山陽須磨浦公園駅

- ・ 駅から右（西）に 100mほど行く。

### 敦盛塚

- ・ 来た道を戻り、駅を 50m程通り越して線路沿いに向かう。

### 一の谷合戦 800 年の碑

- ・ 須磨浦公園の松林を東に行く。

### 源平史跡戦いの浜碑

- ・ 「源平ゆかりの地 神戸へようこそ」の看板がかわいらしい。
- ・ 安徳帝内裏跡伝説地には、この碑からまっすぐ山に向かう。鉄道下の小さなトンネルと抜けると、急な階段の坂道になる。ここからの景色はいい。

### 安徳帝内裏跡伝説地(一の谷公園)

- ・ 安徳宮が住宅の中にある。
- ・ 来た道を戻り、国道 2 号を東に行く。山陽須磨駅を越えて、山陽須磨寺駅に向かう。

### 平重衡とらわれの遺跡

- ・ 山陽須磨寺駅のすぐ前
- ・ 須磨寺参道はNHK義経の横断幕や旗があり、須磨寺前商店街全体で義経を盛り上げている。
- ・ 「敦盛団子」などののぼりも見られる。

### 須磨寺

- ・ 源平の庭（熊谷直実と平敦盛の像）
- ・ 宝物館（からくり人形が面白い）
- ・ 弁慶の鐘
- ・ 平敦盛公の首洗いの池
- ・ 義経腰掛けの松
- ・ 敦盛首塚など、見どころは多い。

### 山陽須磨寺駅



敦盛塚



一の谷合戦 800 年の碑



源平史跡戦いの浜碑



安徳宮



平重衡とらわれの遺跡



須磨寺前商店街の敦盛団子



源平の庭  
平敦盛(左)と熊谷直実(右)

「平家、奇襲攻撃にあう……須磨」に関する資源の概要

資源名	概要	出典
敦盛塚	「一の谷の戦い」で源氏の武将・熊谷直実（くまがいなおさね）に討たれた若武者・平敦盛（あつもり）の供養塔であるといわれる。須磨寺にもあるが、須磨浦公園にもある。須磨寺の方は、首塚で、須磨浦公園の方は、胴塚という説がある。	兵庫県情報
一の谷合戦800年の碑	一の谷合戦800年を記念して、地元ライオンズクラブが建立。	神戸市情報
源平史跡戦の浜碑	平安時代末期、源氏と平家の争いで、須磨・一の谷が舞台となった「一の谷の戦い」があった。1184年2月に行われたこの戦いでは、平家方の死者は1000余人。重衡は捕虜となり、忠度以下、通盛、経正、経俊、敦盛、知章など、多くの一門が討たれている。現在は松の生い茂る公園になっているが、一の谷の戦いのあった旧暦の2月7日にこの辺りで耳を澄ませると、軍馬のいななくざわめきが聞こえてくるといふ伝説がある。	兵庫県情報
安徳帝内裏跡伝説地	二の谷の坂をのぼった高台に「安徳帝内裏跡伝説地」の石碑がある。ここに、安徳天皇の内裏があったという伝説がある。安徳天皇は、平清盛の娘、建礼門院徳子を母として生まれた悲劇の幼帝。治承4年（1180年）2歳で即位。木曾義仲の京都進入により、平家一門とともに西へ都落ちし、寿永4年（1185年）3月24日、壇の浦で平家滅亡とともに祖母二位尼にいだかれて入水されたと伝えられている。この伝説地は歴史的には矛盾するが、西下の途中、一の谷に一時内裏をおかれたとの言い伝えがあり、元禄年間には芭蕉がここを訪ねている。安徳天皇の冥福を祈って、この地に祀られているのが安徳宮である。	兵庫県情報
平重衡とらわれの松跡	寿永3年2月7日、源平合戦のときに東門生田の森の副大将であった平重衡は、源平の軍勢を防ぎきれず須磨まで落ち延びたが、ついには生け捕られてしまう。山陽電車須磨寺駅前には「平重衡とらわれの遺跡」の碑が建っており、かつてここに腰掛の松といわれた大きな松があったため、合わせてこう呼ばれている。	兵庫県情報
須磨寺	真言宗須磨寺派本山で、正式名は福祥寺という。寺の仁王門を通過して進むと、石段左下に平敦盛と呼び止める熊谷直実の一期討ちの場面を現した「源平の庭」がある。ちょうど能『敦盛』のキリ「後より。熊谷の次郎直実。遁さじと。追つ駆けたり敦盛も。馬引き換えし」の謡の場面である。「源平の庭」の奥には「宝物館」があり、寺宝が公開されている。平敦盛が討たれる時に身につけていたとされる「青葉の笛」ほか、蓮生法師作という平敦盛の木像などがある。奥には敦盛塚があるが、須磨浦公園にも同じく「敦盛塚」がある。須磨寺が首塚で、須磨浦公園の方が胴塚だという説明はあるが、もともとはまったく関係なかった「あつめ塚」が訛って「敦盛塚」となったという話もある。ほかに源義経が敦盛の首を検分する際に腰をかけたという「義経腰掛松」、敦盛の首を洗ったという「敦盛首洗池」といった源平合戦に関係するスポットのほか、「神功皇后釣竿竹」「弘法岩」「芭蕉句碑」など、たくさんの史跡がある。	兵庫県情報

(2) 義経、嵐の中を出発.....大阪

一口メモ： 平氏追討の命.....寿永3年(1184)の一の谷の合戦後、源頼朝から範頼には平氏追討の命が下り、範頼は西国に向かうが、義経には声がかからなかった。義経に平氏追討の命が下ったのは翌元暦2年(1185)正月で、義経は摂津の渡辺津(大阪市)に向かった。

逆櫓について口論.....そこへ頼朝から派遣された梶原景時率いる主力軍と合流するが、義経と梶原景時は逆櫓について口論となる。景時は船を前後自在に動かせるように船首にも櫓をつける「逆櫓」を提案するが、義経は退くための櫓など無用として一蹴した。満座の中で誇りを傷つけられた景時は恨みを忘れず、義経を陥れるような手紙を頼朝に書き送るようになったと言われている。

嵐の中を出航.....義経は渡辺津から屋島に向けて出航しようとしたが、大風でなかなか出航できない。悪天候の中、義経は景時に告げず、船出した。尻込みする船頭を弓矢で脅して5艘の船に分乗して出航した。従う兵は150騎。3日かかる海路を4時間余で勝浦(小松島市)に到着した。

見どころ：源義経が梶原景時と論争した「逆櫓の松」跡、屋島に向かった義経が大波にさらわれ流れ着いたという逸話が残る「判官松」跡、義経が必勝祈願した大和田住吉神社

コース：所要時間2時間半程度

J R福島駅 (徒歩5分) 逆櫓の松跡碑 (徒歩5分) J R福島駅 (JR環状線5分) J R西九条駅(のりかえ) 阪神西九条駅 (阪神西大阪線2分) 阪神千鳥橋駅 (徒歩15分) 朝日神明社(逆櫓社) (徒歩15分) 阪神千鳥橋駅 (阪神西大阪線5分) 阪神福駅 (徒歩10分) 判官松伝承地 (徒歩10分) 大和田住吉神社 (徒歩10分) 阪神出来島駅

「義経、嵐の中を出発.....大阪」コース





## J R 福島駅

- ・なにわ筋を南に向かい、福島天満宮を越えた先を右に曲がる。

## 逆櫓松跡

- ・都会の真ん中のマンション前に逆櫓松跡の碑がある
- ・碑の裏には「大正 15 年 4 月 福島史談会」の文字が刻まれている

## J R 福島駅

- ・ J R 環状線

## J R 西九条駅から阪神西大阪線に乗り換え

- ・ 阪神西大阪線

## 阪神千鳥橋駅

- ・ 四貫島商店街の横を通り、梅香の交差点を越えて 100m ほど進んでから左に曲がる。
- ・ 春日出小学校の西隣に、朝日神明社（逆櫓社）はある。

## 朝日神明社（逆櫓社）

- ・ 由緒によると、朝日神明社は明治 40 年に東区神崎町にあった朝日宮（逆櫓社）と此花区川岸町の皇大神宮が合祀されて此花区川岸町に建てられたが、「川岸町一体は世の進むにつれ工場地として発展した為、昭和 6 年現在地遷宮した」とある。
- ・ 住宅地にある神社で、3つの神社が合祀されている（鳥居も3つある）。

## 阪神千鳥橋駅

- ・ 阪神西大阪線

## 阪神福駅

- ・ 駅の北側を左折すると国道 43 号に出るので、国道 43 号を右に曲がって 10 分ほど行くと、大きな交差点がある。その交差点を左、西島方面に曲がって、50m ほどで左側に大野下水処理場北門前に「判官松伝承地」の碑がある。

## 判官松伝承地の碑

- ・ 国道 43 号まで戻り交差点を渡ってから左に曲がり、出来島小学校の手前を右に曲がり、約 10 分歩くと、大和田住吉神社に着く。

## 大和田住吉神社

- ・ 義経が必勝を祈願した神社で、判官松之跡の碑がある。
- ・ 来た道を戻り、阪神西大阪線まで着いたら右に曲がり高架線沿いに行くと、出来島駅に着く

## 阪神出来島駅



逆櫓松跡碑



朝日神明社（逆櫓社）



判官松伝承地



大和田住吉神社

判官松之跡の碑  
（大和田住吉神社）

「義経、嵐の中を出発……大阪」に関する資源の概要

資源名	概要	出典
逆櫓の松跡	1185年（文治元年）平家討伐の命を受け、讃岐国屋島に向かうことになった源義経。かれは大きな松の木の下で梶原景時と論争を繰り広げたとされる。それは、「船の前後進が自在になる逆櫓のとりつけ」の是非をめぐるのことだ。平家物語に登場し、歌舞伎の演目にもなっているこの論争の舞台がここで、800年以上も昔の話。ここにあったというその松は、当時淀川通いの船が福島到着の目印にした大樹だったといわれる。今はそこに碑が建てられている。	大阪府 HP
朝日神明社 （逆櫓社）	朝日神明社は、浪速三神明の一つで天慶年間(938～947)平貞盛により創建されたといわれる「朝日神明宮(旧東区)」と南新田の鎮守の社「皇太神社(此花区)」が明治40年に合祀されたものである。また、当社には「春日出」の地名の由来ともゆかりある「春日社」も合祀されている。 「朝日神明宮」には平家との戦いの際、源義経が当社に戦勝を祈願し、その時に武蔵坊弁慶が馬草を借り借用状を残したといわれている。また、義経と梶原景時が有名な「逆櫓の論」をし、神明宮に祈願をしているので戦勝疑いなしと景時を退け平家を討滅したことから「逆櫓社」ともいわれている。	大阪市 HP
判官松伝承地	1185年（文治元年）、平氏追討の激戦地・屋島に向けて暴風の中を出帆した九郎判官こと源義経。大波にさらわれ、流れついたという逸話が残る伝承地がこの地である。そして渡航と戦勝を祈願するため、住吉大明神に立ち寄った際、ここには義経が休息した小さい丘と老松があったと伝えられる。その後、義経は無事に航海に成功し、平氏を屋島に大破する。現在、伝承地として碑が立っているのは大野下水処理場の北正面の門前であるが、以前はさらに南方（海側）に立っていたものである。老松は1877年（明治10年）に落雷により焼亡してしまった。	大阪府 HP
判官松の碑 （大和田住吉神社）	義経が必勝祈願したという大和田住吉神社の境内には、「判官松」を顕彰するために1941年（昭和16年）に大和田青年団が建てた「判官松之跡」の碑がある。 この判官松の碑の由来については、以下のとおり記されている。 「平家物語卷第十一逆櫓の記述によれば『元暦二年二月三日九郎大夫判官義経都をたつて摂津国渡辺（今の堀江）よりふなぞろへして八嶋へすでによせんとす。三河守範頼も王実都をたつて摂津国神崎（今の西淀川）より兵船をそろえて山陽道におもむかんとす』とある。 平家追討の軍勢は折からの台風の襲来にあい一時退避を余儀なくされ、陣を張ったのがこの地である。その時義経はあらためて住吉大明神に海上安全の祈願をし一本の松の苗を手植えた。それが判官の松の由来である。」	大阪府 HP

### (3) 義経、上陸後ただちに進撃.....小松島

一口メモ： 勢合.....摂津の渡辺津から出航した船は嵐の中を阿波の勝浦の浜に上陸した。勢合はあちこちの浜に吹き寄せられた船を集めて兵たちが勢ぞろいした場所である。

義経ドリームロード.....勝浦に上陸した義経軍が屋島に向けて進軍した道は義経街道と呼ばれ、このうち小松島市の部分は「義経ドリームロード」として案内板が設定されている。

夜を徹して.....勝浦に上陸した義経は、在郷武士の道案内で休む間もなく讃岐の屋島をめざす。通常2日はかかると言われる阿讃国境の大坂越えを夜を徹して行軍し、翌朝には屋島に到着した。

見どころ：義経の勢いを感じる進撃の地。義経上陸の碑、義経像がそびえ立つ旗山、上陸地から屋島に向けて進軍した道・義経ドリームロード

コース：所要時間3時間程度

J R 赤石駅（徒歩2分） 勢合（上陸した軍船を集めて勢揃い）（徒歩25分） 釈迦庵・弦張坂（敵を警戒して弓の弦を張った）（徒歩20分） 旗山（士気を高めるため源氏の軍旗を掲げた）（徒歩15分） 弁慶の岩屋（徒歩20分） 新居見城跡（義経に協力した近藤六親家の居城）（徒歩10分） くらかけの岩（春日神社）（徒歩15分） 中王子神社（徒歩30分） J R 中田駅

「義経、上陸後ただちに進撃.....小松島」コース





## J R 阿波赤石駅

- ・駅を出て信号を左手に 100m 程行くと、左手線路沿いに勢合の碑がある。



勢合の碑

## 勢合

- ・義経が別々に着いた軍船を集めて勢揃いしたところ。
- ・J R の踏切を渡り、道沿いに 10 分ほど行くと、国道 55 号に出る。信号を渡り、斜め右の道を行くと、T 字路に出るので、そこを左折する。後は義経ドリームの看板の指示通りに行く。



弦張坂



義経ドリームロードの標識

## 釈迦庵

### 弦張坂

- ・釈迦庵のすぐ上が弦張坂である。
- ・弦張坂からは山道で、歩くのにふさわしい道である。



弦巻坂

### 弦巻坂

- ・弦巻坂を下ると、牛舎に出る。
- ・牛舎から左の道を登ると、四国霊場札所・恩山寺に行く。右に道を下ると、旗山方面に出る。



義経の像

### 義経上陸の碑

- ・T 字路に碑がある。



天馬石

### 旗山

- ・義経像がそびえ立つ。

### 天馬石

- ・馬の形をした石。

### 弁慶の岩屋

- ・弁慶の岩屋の碑があるところを登っていくと、弁慶の岩屋がある。



弁慶の岩屋



新居見城跡

### 新居見城跡

### くらかけの岩

- ・くらかけの岩からまっすぐ行くと、県道に出る。県道を左に折れていくと、右手に小松島市浄水場があるので、その浄水場の先に中王子神社がある。



くらかけの岩 (春日神社)

### 中王子神社

- ・県道に戻り、県道を左折してまっすぐ行き、国道 55 号を左折すると J R 中田駅である。



中王子神社

### J R 中田駅

「義経、上陸後ただちに進撃……小松島」に関する資源の概要

資源名	概要	出典
義経ドリームロード	元暦2年(1185)2月、義経は小松島に上陸し、屋島に向かって進軍していったと言われている。義経ドリームロードは、源氏の白旗を掲げ平氏の士気をたかめたと言われる「旗山」などゆかりの史跡を歩くコースで、延長10kmである。	徳島県情報
勢合	義経が風雨の中をあちこちの浜に吹き寄せられた軍船を集めて勢揃いした場所	徳島県情報
弦張坂	峠の向こうの敵を警戒して弓の弦を張って登った坂	徳島県情報
弦巻坂	敵兵がないことを知って矢の弦を巻かせた坂	徳島県情報
旗山	兵士の士気を高めるために、小山の山頂に源氏の軍旗(白旗)を掲げた山	徳島県情報
天馬石	宇治川の合戦で名馬磨墨と先陣争いをした名馬池月が石に化した、また馬が天から下りて化石になったともいう。この石を踏むと腹痛を起こすといういわれが残る。	徳島県情報
弁慶の岩屋	この古墳は千数百年以前にこの地方に住んでいた有力者の墓で、いわゆる横穴式古墳である。この岩屋は強力な弁慶でなくてはできないということで、この地方の人が名付けた。	徳島県情報
新居見城跡	近藤六親家の居城で、義経が上陸の際に戦わずにただちに協力し、手兵30騎で屋島へ向けて先導した。	徳島県情報
くらかけの岩	春日神社にある。この辺りで勝浦川を渡る準備をした。	徳島県情報
中王子神社	この付近から勝浦川を渡り、熊山城を攻めた。	徳島県情報



(4) 嗚呼、哀れなるかな平家……屋島

一口メモ： 平家の拠点・屋島……一の谷の合戦で追われた平家の軍勢は、東は屋島、西は長門の彦島に拠点を置いて、瀬戸内海を支配して、京都へ攻め上がる機会をうかがっていた。屋島には平家の総大将・平宗盛が、安徳天皇を擁して本陣を張っていた。

奇襲戦法……寿永4年(1185)2月、手兵わずか150騎を率いて平家追討を企てた義経は、軍勢が少ないことを見抜かれないために平家の背後に火を放つ奇襲戦法に出る。不意をつかれた平家3千の軍勢は狼狽して、屋島の陣地を捨てて船で海上に逃げ出した。

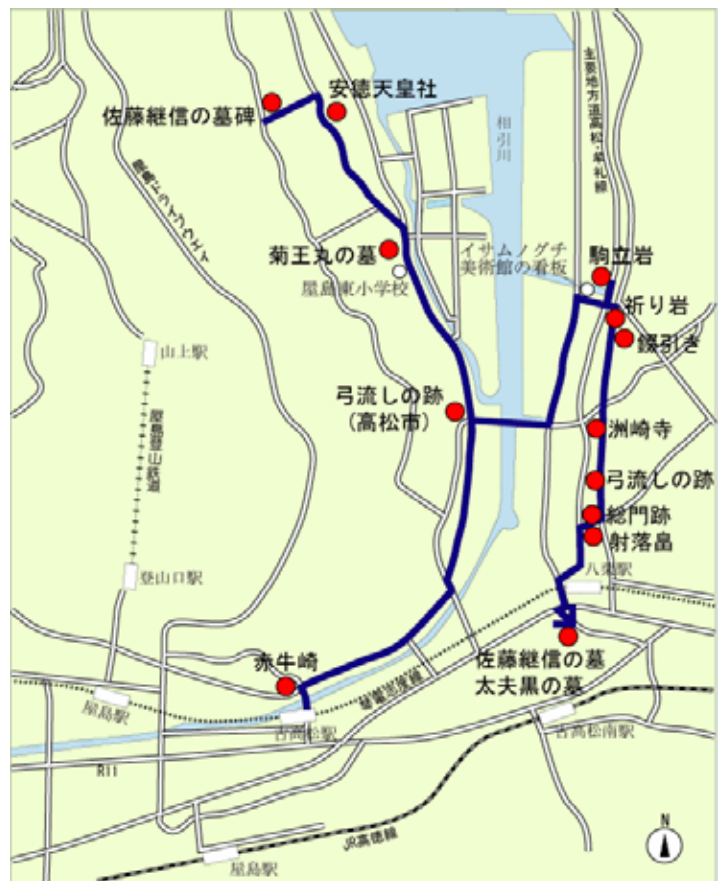
佐藤継信と太夫黒……義経が奥州から出発する際に、藤原秀衡は佐藤継信・忠信兄弟に同行することを命じたが、この屋島の合戦で義経は忠臣・佐藤継信を失った。義経の身代わりになって敵の弓矢を受けたのである。義経は近在の僧に頼んで供養を行い、後白河法皇からいただいた名馬・太夫黒を僧に贈った。

見どころ：源平合戦の激戦地。義経の身代わりとなって矢を受けた佐藤継信の墓、義経が継信のために贈った名馬・太夫黒の墓、那須与一が的中を祈った祈り岩・足場を固めた駒立て岩、安徳天皇社、源平ゆかりの壁画や庭を有する州崎寺

コース：所要時間2時間半程度

琴電古高松駅 (徒歩1分)	あかばさき 赤牛崎
(徒歩15分)	弓流しの跡(高松市)
(徒歩5分)	菊王丸の墓 (徒歩5分)
5分)	安徳天皇社 (徒歩3分)
佐藤継信の碑 (徒歩25分)	駒立岩・祈り岩・しころ引き (徒歩5分)
州崎寺 (徒歩2分)	弓流しの跡(牟礼町) (徒歩2分)
総門跡・射落島 (徒歩5分)	佐藤継信の墓・太夫黒の墓 (徒歩3分)
琴電八栗駅	

「嗚呼、哀れなるかな平家……屋島」コース



### 琴電古高松駅

- ・ 駅から北側（屋島側）に出る。橋を左に30m程行く。

### 赤牛崎の案内板

- ・ 相引川沿いに東に行くと、右側から八栗駅からの道が合流するので、まっすぐに北へ向かう。

### 弓流し跡（高松市）

- ・ 道沿いに北へ向かうと、高松市立屋島東小学校の北隣に菊王丸の墓がある。

### 菊王丸の墓

- ・ 道沿いに北に50m程行くと、左に安徳天皇社への看板がある。

### 安徳天皇社

- ・ まっすぐ20m、右へまがり30mほど行くと、右側に屋島寺への標識があるので、そこを左に曲がって行く。

### 佐藤継信の墓碑

- ・ 高松市の弓流し跡まで戻り、道を左折して相引川を渡る。信号を左折して、300mほど行く。右手のイサムノグチ美術館の看板を右に曲がり100m程行く。

### 駒立岩・祈り岩・影清のしころ引き

- ・ 駒立岩のすぐ東側（信号付近）に祈り岩としころ引きの伝説跡がある。
- ・ 牟礼町では案内板がしっかりできている。

### 州崎寺

- ・ 州崎寺には源平合戦を描いた壁画や案内板などがある。屋島を描いた庭は見事である。

### 弓流しの跡（牟礼町）

### 総門跡・射落畠

- ・ 琴電八栗駅を越え、踏切を渡って、神櫛王墓を越えると、佐藤継信の墓がある。

### 佐藤継信の墓、太夫黒の墓

- ・ 佐藤継信は「胸板をすえて忠義の的に立ち」と讃えられている。

### 琴電八栗駅



弓流し跡(高松市)

赤牛崎の案内板



安徳天皇社

菊王丸の墓



駒立岩

佐藤継信の墓 (高松市)



州崎寺

祈り岩



射落畠



佐藤継信の墓 太夫黒の墓

「嗚呼、哀れなるかな平家……屋島」に関する資源の概要

資源名	概要	出典
祈り岩	那須与一宗高が扇的的を射る時に、この岩に向かって一心に祈ったとされる。バス停前には、半分埋もれた岩が三重、そばに「いの里岩」と刻まれた碑がある。	源平屋島合戦(香川県パンフレット)
駒立岩	那須与一宗高が扇的的を射る際、駒を止めたと言われる巨岩。祈り岩の50m河上にあり、潮が引くと頭を出す。	源平屋島合戦 香川県情報
洲崎寺	合戦で源氏が負傷した兵を運び込んだとされる古寺。能登守教経の豪弓に倒れた佐藤継信もこの寺の門扉で源氏の本陣・瓜生ヶ丘まで運ばれたとされ、継信の菩提寺でもある。	源平屋島合戦
赤牛崎	屋島の内裏を攻め込もうとした源氏軍が数十頭の赤牛を放って屋島へ上陸する浅瀬を知り、押し渡ったとされる所。	源平屋島合戦
菊王丸の墓	平教経の強弓にあたって倒れた佐藤継信の首を取ろうと駆け寄ったところ、継信の弟・忠信に射倒された菊王丸を主君の教経が哀れんで葬ったとされる。	源平屋島合戦
安徳天皇社	寿永2年(1183)、一ノ谷で大敗し、屋島に逃げた平宗盛が群司に命じて造営させた幼帝・安徳天皇の行宮跡。	源平屋島合戦 香川県情報
佐藤継信の墓	能登守教経の矢面に立ち、主君・義経の身代わりとなって討死した佐藤継信の最期は武士道の鑑であると、寛永20年(1643)初代高松藩主が、合戦当時に義経が丁重に葬ったあとを受けて墓所を屋島寺へと続く遍路道の傍らに移し、建立したもの。牟礼町王墓の王墓池にも義経が葬ったとされる継信の墓がある。	源平屋島合戦 香川県情報
義経弓流し跡	「平家物語」や「源平盛衰記」に描かれた合戦のエピソードである「義経の弓流し」の場。かつては海であった所に、石碑が1本建っている。	源平屋島合戦
総門跡	安徳天皇が六万寺を行在所としていた頃、海辺の守りに門を構え、平家の前哨としていた所。現在の衡門は、初代高松藩主・松平頼重公が源平台戦の跡を後世に残すために建立したもの。	源平屋島合戦 香川県情報
射落畠	義経の四天王の一人、佐藤継信が忠死を遂げたところで、昭和6年石碑が建てられた。「胸板をすえて忠義的的に立ち」とその忠死をたたえている。	源平屋島合戦
大夫黒の墓	太夫黒は義経が後白河法皇から賜った秘蔵の名馬で、合戦で自分の身代わりとして討死した佐藤継信の菩提を弔ってもらったお礼に志度寺の覚阿上人に与えられたと言われる。後に、逃れて継信の墓前に倒れ伏したとの伝説があり、その墓は王墓池にある継信の墓の傍らに並び立てられている。	源平屋島合戦

(5) 安徳天皇、伝説の地へ……越知

一口メモ： 安徳天皇生存説……平家物語では、安徳天皇は元暦年2年(1185)2月壇ノ浦の戦いで敗れた平家一族とともに入水じゆすいされたと伝えているが、別の書物では「天皇の行方知れず」と書かれているところから天皇の生存説が生まれ、各地に天皇潜幸伝説が残されている。

横倉山行在所よこくらやまあんざいしよ……屋島の合戦で身の危険を感じた安徳天皇一行は、阿波の豪族・田口成良しげよしの案内で阿波国に逃れその後四国山地のあちこちを潜幸したと言われる。そして文治3年(1187)3月、横倉山に行在所の建立を始め、同年8月に完成したため、天皇は平知盛、経盛、乳母虎岡、田口成良ら80余人を従えて横倉山の行在所に移ったという。

安徳天皇崩御……正治2年(1200)8月8日、安徳天皇は23歳で波乱の生涯を閉じ、鞠力奈路まりがなるに葬られたという。これが現在宮内庁所轄の安徳天皇陵墓参考地である。

見どころ：壇ノ浦で入水したと言われる安徳天皇が、屋島檀の浦から阿波国に逃れ四国山地を経て高知県越知町に潜幸していたと伝えられている。

コース：所要時間3時間程度

越知町役場付近 (徒歩1時間) 八坂神社 杉原神社 安徳水 横倉宮 安徳天皇陵墓参考地 (徒歩1時間30分) 越知町役場付近

「安徳天皇、伝説の地へ……越知」コース





越知町役場付近

八坂神社

八坂神社



杉原神社

- ・杉原神社の隣には、天皇の従臣 80 余人の末社が合祀された平家の宮がある。



杉原神社

安徳水

横倉宮

安徳天皇陵墓参考地

平家の宮



越知町役場付近



安徳水



安徳天皇陵墓参考地

横倉宮



写真：越知町観光協会 HP より

### 「安徳天皇、伝説の地へ……越知」に関する資源の概要

資源名	概要	出典
八坂神社	文治3年(1187)8月安徳天皇勸請と伝えられている。	高知県情報、越知町観光ページ HP
杉原神社	文治3年(1187)8月勸請。修験道の中ノ宮と称していたが、明治4年(1871)に杉原神社と改称した。なお、天皇の従臣80余人が横倉山の各地に祭られ、横倉山の末社となっており、これらの末社は杉原神社隣の「平家の宮」に合祀されている。	高知県情報、越知町観光ページ HP
安徳水	行在所跡の側に、清浄な湧き水があり、これを安徳天皇の用水に供したと言われている。その下流を「安徳水」として再現し、昭和60年(1985)、環境庁の「全国名水百選」に選ばれた。	越知町観光ページ HP
横倉宮	横倉山行在所にて崩御の安徳天皇を、平知盛が玉室大神として正治2年(1200)9月に中嶽山頂に祭ったのに始まり、修験道の	高知県情報、越知町観光ページ HP

	奥の院または本宮と称していたが、明治4年(1871)4月に御嶽神社と改称。さらに昭和24年(1949)12月、神社本庁の通達により横倉宮と改称した。	
安徳天皇陵墓 参考地	<p>屋島檀の浦の戦いで源氏に追われた安徳天皇一行は、阿波の豪族であった田口成良の案内により、阿波国から身を隠しながら四国の山地を西へ転々とし、最終的に土佐国横倉山を安住の地として、23歳で崩御されるまで従臣とともに暮らされたという伝説が残っている。</p> <p>明治初年、越知村戸長として赴任した佐川村の川添亥平が、村人を伴い、伝承の天皇陵墓の所在を探索し、鞠カ奈呂陵墓と思われる所を発見。明治16年(1883)宮内省より、陵墓見込地であるので、保護に留意するようとの通達を受け、同18年(1885)陵墓領域5町8反5畝3歩(約5.8ha)が確定された。立木とともに宮内省の所轄となって、祭祀、清掃等の経費が支出され、陵墓伝説地と称することになり、さらに、昭和元年(1926)陵墓参考地になった。陵墓は、原生の大小古木が生い茂る中、苔むした111の石段を上った所にあり、昭和52年(1977)に宮内庁が改築。石材で二重の玉垣を巡らしている。</p>	高知県情報、越知町観光HP

(6) 弁慶、父湛増に援軍を要請……田辺

一口メモ： 弁慶の生まれ……弁慶の出生については諸説あるが、田辺市では弁慶は熊野別当湛増の子である。弁慶は母の胎内にあること 18 ヶ月で、鬼若と名付けられた。

五条の橋の上……牛若丸と弁慶が初めて出会ったのは「京の五条の橋の上」ということになっているが、これは明治 44 年(1911)の文部省唱歌「牛若丸」の公表以来のことだと言われている。これ以前には二人の出会いの場は清水寺とされていた。牛若丸の時代には鴨川五条に橋はなかったそうである。

紅白の鶏……屋島の合戦から戻った弁慶は、父湛増に義経への援軍を要請した。もともと湛増は平家との結びつきが強かったが、弁慶の要請を受けて、闘けい神社で紅白の鶏を 7 番闘わせて、7 番とも白の鶏が勝ったので、湛増は源氏への援軍を決断したという。こうして熊野水軍は壇ノ浦に向けて出陣した。

見どころ：義経を支えたヒーロー・弁慶の言い伝えを辿る。弁慶生誕地の碑がある「大福院」、弁慶産湯の釜や義経鐘愛の笛などがある「闘けい神社」、弁慶の父である熊野別当湛増が壇ノ浦の合戦で出陣した「扇ヶ浜」、弁慶の腰掛石がある「八坂神社」

コース：所要時間 2 時間程度

J R 紀伊田辺駅 (徒歩 5 分) 大福院 (徒歩 1 分) 闘けい神社 (徒歩 15 分)  
熊野水軍出陣の地碑(扇ヶ浜) (10 分) 弁慶松・弁慶産湯の井戸(田辺市役所前)  
(徒歩 2 分) 八坂神社 (徒歩 10 分) J R 紀伊田辺駅

「弁慶、父湛増に援軍を要請……田辺」コース



## J R 紀伊田辺駅

- ・駅のホームには弁慶歓迎ロボットがあって、訪れる人を歓迎する。
- ・駅には田辺之三人の一人として弁慶が描かれている。(他は、南方熊楠と合気道の創始者・植芝盛平である)

### 駅前弁慶像

- ・駅前通りをまっすぐ3分ほど歩き、信号を左に曲がると闘けい神社の参詣道となる。闘けい神社の門の手前、左に小さな寺院がある。大福院である。

### 大福院

- ・弁慶生誕地の碑がある。明治維新で廃仏毀釈が行われるまでは、神社と寺は一体のものだったという。

### 闘けい神社

- ・神明づくりの立派な神社である。古くは新熊野とり合大権現と呼ばれていたが、明治維新で闘けい神社に改められた。
- ・湛増・弁慶の像がある。そこには、屋島から戻った弁慶が、湛増に義経への援軍を要請したところ、湛増は紅白の鶏を戦わせ、白の鳥が勝ったので、熊野水軍は源氏方に味方するため壇ノ浦に出陣したと記されている。

### 熊野水軍出陣の碑

- ・湛増が2千余人の兵を引き連れて壇ノ浦に出陣した。

### 弁慶産湯の井戸・弁慶松(田辺市役所入口)

- ・市役所正面から右に出て、紀南文化会館を右折してまっすぐ行く。
- ・田辺郵便局には案内標識があり、標識の上には弁慶がいる。その郵便局の西側に田辺第一小学校があり、小学校手前の通りを北に歩くと、八坂神社に着く。

### 八坂神社

- ・弁慶腰掛けの岩がある。
- ・北に向かい、最初の交差点を右折してまっすぐ行くと5分程で駅前通りに入る。

## J R 紀伊田辺駅



田辺之三人  
(紀伊田辺駅)



弁慶像  
(紀伊田辺駅前)



弁慶生誕地の碑(大福院)



湛増・弁慶の像(闘九神社)



熊野水軍出陣の碑



弁慶産湯の井戸



弁慶腰掛けの岩(八坂神社)



「弁慶、父湛増に援軍を要請」に関する資源の概要

資源名	概要	出典
弁慶像	薙刀を構えたりりしい荒法師姿は、田辺駅に下りた旅行客の注目を集めている。	田辺市情報
弁慶生誕地の碑	闘けい神社近くの大福院にある。	田辺市情報
闘けい神社	弁慶の父、熊野別当湛増が源平合戦の折に、どちらに味方するか紅白の鶏を闘わせたという神社。弁慶ゆかりの社宝が収められている。また、境内には、武蔵坊弁慶・熊野水軍出陣 800 年祭を記念して、「湛増・弁慶の像」が建立されている。	田辺市情報
熊野水軍出陣の地碑	弁慶の父である熊野別当湛増が、壇ノ浦の合戦で源氏の見方をするために、文治元年（1185）2 千余人の兵を引き連れて、扇ヶ浜から出陣した史実を後世に残すために建立された。	田辺市情報
弁慶産湯の井戸・弁慶松	弁慶産湯の井戸と弁慶松がある。	田辺市情報
弁慶の腰掛石	弁慶が少年時代この石に座ったと言われており、お尻の形の窪みができている。	田辺市情報

## (7) 義経と静、永遠の別れ.....吉野

一口メモ： 西国行きから吉野へ.....一の谷、屋島の合戦、そして壇ノ浦で平家を滅ぼした義経であったが、頼朝からは冷たく扱われ、ひとまず西国行きを決意する。文治元年(1185)11月、義経一行は大物浦(兵庫県尼崎市)を出向したが、激しい西風に見舞われ、住吉の浜(神戸市東灘区)に打ち上げられた。義経らは難波の四天王寺を経て、吉野に逃げ込むことにした。

吉野の奥に.....義経と静は吉水院(明治期の廃仏毀釈で吉水神社に改称)に数日過ごしたが、追っ手から逃れるためさらに吉野の奥深くに進まざるを得なかった。しかし、大峯の山は女人禁制である。義経は静に別れを告げる。文治元年(1185)11月中頃のことである。

山中を転々と.....吾妻鏡によると、義経主従が奥州に向かったらしいとの知らせが伝わるのは文治3年(1187)2月であり、1年余りの間、義経主従は畿内周辺の山中を転々としていたものと考えられている。

見どころ：義経が静と潜居した「吉水神社」、追っ手に捕らわれた静御前が舞を舞った「勝手神社」、忠臣・佐藤忠信が敵を防いだ「佐藤忠信花矢倉」、義経が弁慶らと隠れた「義経隠れ塔」

コース：所要時間3時間程度

ロープウェイ吉野山駅 (徒歩15分) 吉水神社 (徒歩5分) 勝手神社 (徒歩1時間20分) 義経隠れ塔(金峯神社) (1時間20分) ロープウェイ吉野山駅

なお、ロープウェイ吉野山駅から金峯神社まではバス交通もある(吉野大峯ケーブルバス奥千本口行きで25分、バス停：奥千本口下車、徒歩5分)。

### 「義経と静、永遠の別れ.....吉野」コース



## ロープウェイ吉野山駅

- ・家々には世界遺産登録記念の提灯がぶら下がっている
- ・蔵王堂は平成 17 年 6 月 30 日までご本尊のご開帳をしている。

吉水神社の書院と本社



## 吉水神社

- ・書院の拝観はおすすめで、源義経、弁慶、静御前などにまつわる遺品がたくさん、しかも身近に見ることができる。ここは後醍醐天皇南朝の皇居であり、豊太閤の花見の本陣でもある。



義経潜居の間（吉水神社）



弁慶思案の間（吉水神社）

## 勝手神社

- ・静御前の碑あり
- ・本殿は 2001 年の火災で焼失した。

## 上千本

- ・登り坂が急になる。
- ・上千本から蔵王堂方面の眺めは、桜の吉野山としてよく見る風景



静御前の碑（勝手神社）



勝手神社

## 佐藤忠信花矢倉

- ・義経の忠臣、佐藤忠信がこの辺りで敵を防いだと言われている

## 吉野水分神社

- ・古く由緒ある神社の風情

## 金峯神社

- ・境内の坂道を 3 分程下ると、義経隠れ塔に至る。

## 義経隠れ塔

- ・義経が屋根を蹴り上げて追っ手から逃れたと言われる。
- ・来た道を戻る（バス交通もある）



佐藤忠信花矢倉の説明版

## ロープウェイ吉野山駅

「義経と静、永遠の別れ……吉野」に関する資源の概要

資源名	概要	出典
吉水神社	大物沖で遭難した義経一行は吉野に逃げ込んだ。吉水神社の書院には「義経潜居の間」が今も残っている。隣り合わせの一畳敷きが「弁慶思案の間」である。義経と静は5日間を吉水神社で過ごしたが、義経追討の院宣が発せられ、吉水神社にも長居ができなくなった。このため、義経は静を都に返す決心をする。	奈良県情報 吉野町 HP
勝手神社	義経と別れた静御前が吉野山中で追手に捕らわれ、請われて舞を舞ったと言われる地。社殿は平成13年(2001)に焼失した。	吉野町 HP
佐藤忠信花矢倉	義経の忠臣・佐藤忠信は義経主従を落ち延びさせるために、義経の身代わりになって追いつがる敵をこの地で防いだ。	吉野町情報
義経の隠れ塔	文治元年、義経がこの塔に隠れ、追っ手から逃れるため屋根を蹴破って外へ出たため、「義経の隠れ塔」、「蹴抜けの塔」と言われている。	奈良県情報 吉野町 HP

## 4. 源平ゆかりの資源をさらに探す

紀淡海峡交流圏には、すでに紹介した資源だけではなく、源平ゆかりの資源がたくさんある。さらに深く源平の道に入り込んでいきたい人のために、以下では各府県からの情報提供等をもとに、源平ゆかりの主要な資源を整理した。

### (1) 大阪府

No	資源名	場所	概要	出典
1	渡辺津	大阪市中央区 ・北区天満橋付近	大川の兩岸を結ぶ渡辺津は、淀川や大和川と瀬戸内海を結ぶ中継港として、また熊野詣の起点として栄えた。文治元年(1185) 頼朝の命を受け、平家を討つために京から屋島に向かう義経は、摂津の渡辺津から、暴風雨の中を五艘の船で出発した。	大阪市 HP
2	<sup>さがる</sup> 逆櫓の松跡	大阪市福島区 福島 2-2-4 JR東西線 新福島駅下車 徒歩 5 分	1185 年(文治元年) 平家討伐の命を受け、讃岐国屋島に向かうことになった源義経。かれは大きな松の木の下で梶原景時と論争を繰り広げたとされる。それは、「船の前後進が自在になる逆櫓のとりつけ」の是非をめぐるのことだ。平家物語に登場し、歌舞伎の演目にもなっているこの論争の舞台がここで、800 年以上も昔の話。ここにあったというその松は、当時淀川通いの船が福島到着の目印にした大樹だったといわれる。今はそこに碑が建てられている。	大阪府 HP
3	朝日神明社 (逆櫓社)	大阪市此花区 春日出中 1 丁目 6 阪神西大阪線 千鳥橋下車徒歩 15 分	朝日神明社は、浪速三神明の一つで天慶年間(938 ~ 947)平貞盛により創建されたといわれる「朝日神明宮(旧東区)」と南新田の鎮守の社「皇太神社(此花区)」が明治 40 年に合祀されたものである。また、当社には「春日出」の地名の由来ともゆかりある「春日社」も合祀されている。 「朝日神明宮」には平家との戦いの際、源義経が当社に戦勝を祈願し、その時に武蔵坊弁慶が馬草を借り借用状を残したといわれている。また、義経と梶原景時が有名な「逆櫓の論」をし、神明宮に祈願をしているので戦勝疑いなしと景時を退け平家を討滅したことから「逆櫓社」ともいわれている。	大阪市 HP
4	<sup>ほうがんまつ</sup> 判官松伝承地	大阪市西淀川区大野 2-4 大野下水処理場北 1 号門前 阪神西大阪線 福駅下車徒歩	1185 年(文治元年) 平氏追討の激戦地・屋島に向けて暴風の中を出帆した九郎判官こと源義経。大波にさらわれ、流れついたという逸話が残る伝承地がこの地である。そして渡航と戦勝を祈願するため、住吉大明神に立ち寄った際、ここには義経が休息した小さい丘と老松があったと伝えられ	大阪府 HP

		10分	<p>る。その後、義経は無事に航海に成功し、平氏を屋島に大破する。現在、伝承地として碑が立っているのは大野下水処理場の北正面の門前であるが、以前はさらに南方（海側）に立っていたものである。老松は1877年（明治10年）に落雷により焼亡してしまった。</p>	
5	判官松の碑 （大和田住吉神社）	<p>大阪市西淀川区大和田5丁目 阪神西大阪線出来島駅下車徒歩10分</p>	<p>義経が必勝祈願したという大和田住吉神社の境内には、「判官松」を顕彰するために1941年（昭和16年）に大和田青年団が建てた「判官松之跡」の碑がある。</p> <p>この判官松の碑の由来については、以下のとおり記されている。</p> <p>「平家物語卷第十一逆櫓の記述によれば『元暦二年二月三日九郎太夫判官義経都をたつて摂津国渡辺（今の堀江）よりふなぞろへして八嶋へすでによせんとす。三河守範頼も王実都をたつて摂津国神崎（今の西淀川）より兵船をそろえて山陽道におもむかんとす』とある。</p> <p>平家追討の軍勢は折からの台風の襲来にあい一時退避を余儀なくされ、陣を張ったのがこの地である。その時義経はあらためて住吉大明神に海上安全の祈願をし一本の松の苗を手植えした。それが判官の松の由来である。」</p>	大阪府 HP

(2) 兵庫県

No	資源名	場所	概要	出典
1	敦盛塚	神戸市須磨区 一の谷町 5 丁目 山陽電鉄須磨 浦公園駅から 西へ 200 メー トル	「一の谷の戦い」で源氏の武将・熊谷直実（くま がいなおざね）に討たれた若武者・平敦盛（あつ もり）の供養塔であるといわれる。須磨寺にもあ るが、須磨浦公園にもある。須磨寺の方は、首塚 で、須磨浦公園の方は、胴塚という説がある。	兵庫県情報
2	源平史跡戦の 浜碑	山陽須磨浦公 園を下車、松林 をくぐりなが ら東へ 5 分	平安時代末期、源氏と平家の争いで、須磨・一の 谷が舞台となった「一の谷の戦い」があった。1184 年 2 月に行われたこの戦いでは、平家方の死者は 1000 余人。重衡は捕虜となり、忠度以下、通盛、 経正、経俊、敦盛、知章など、多くの一門が討た れている。現在は松の生い茂る公園になっている が、一の谷の戦いのあった旧暦の 2 月 7 日にこの 辺りで耳を澄ませると、軍馬のいななくざわめき が聞こえてくるという伝説がある。	兵庫県情報
3	安徳帝内裏跡 伝説地	神戸市須磨区 一の谷町 2 丁 目 山陽須磨浦公 園駅下車北東 600 メートル	一の谷の坂をのぼった高台に「安徳帝内裏跡伝説 地」の石碑がある。ここに、安徳天皇の内裏があ ったという伝説がある。安徳天皇は、平清盛の娘、 建礼門院徳子を母として生まれた悲劇の幼帝。治 承 4 年（1180 年）2 歳で即位。木曾義仲の京都進 入により、平家一門とともに西へ都落ちし、寿永 4 年（1185 年）3 月 24 日、壇の浦で平家滅亡と ともに祖母二位尼にいだかれて入水されたとい えられている。この伝説地は歴史的には矛盾する が、西下の途中、一の谷に一時内裏をおかれたと の言い伝えがあり、元禄年間には芭蕉がここを訪 ねている。安徳天皇の冥福を祈って、この地に祀 られているのが安徳宮である。	兵庫県情報
4	須磨寺	神戸市須磨区 須磨寺町	真言宗須磨寺派本山で、正式名は福祥寺という。 寺の仁王門を通して進むと、石段左下に平敦盛と 呼び止める熊谷直実の一期討ちの場面を現した 「源平の庭」がある。ちょうど能『敦盛』のキリ 「後より。熊谷の次郎直実。遁さじと。追つ駆け たり敦盛も。馬引き換えし」の謡の場面である。 「源平の庭」の奥には「宝物館」があり、寺宝が 公開されている。平敦盛が討たれる時に身につけ ていたとされる「青葉の笛」ほか、蓮生法師作と いう平敦盛の木像などがある。奥には敦盛塚があ るが、須磨浦公園にも同じく「敦盛塚」がある。 須磨寺が首塚で、須磨浦公園の方が胴塚だとい う説明はあるが、もともとはまったく関係なかった 「あつめ塚」が訛って「敦盛塚」となったという	兵庫県情報

			話もある。ほかに源義経が敦盛の首を検分する際に腰をかけたという「義経腰掛松」、敦盛の首を洗ったという「敦盛首洗池」といった源平合戦に関係するスポットのほか、「神功皇后釣竿竹」「弘法岩」「芭蕉句碑」など、たくさんの史跡がある。	
5	平重衡とらわれの松跡	山陽須磨寺駅 下車すぐ	寿永3年2月7日、源平合戦のときに東門生田の森の副大将であった平重衡は、源平の軍勢を防ぎきれず須磨まで落ち延びたが、ついには生け捕られてしまう。山陽電車須磨寺駅前には「平重衡とらわれの遺跡」の碑が建っており、かつてここに腰掛の松といわれた大きな松があったため、合わせてこう呼ばれている。	兵庫県情報
6	平忠度冢	神戸市長田区 野田町8丁目	一ノ谷合戦で岡部忠澄に討たれた平忠度の遺体を埋葬した地とされる。2004年夏、震災で壊れていた石碑が再建されたばかりである。	兵庫県情報
7	源平勇士の碑	神戸市長田区 五番町	旧西国街道筋の、御船山旧跡の川向かい、現在の村野工業高校南西の新湊川沿いに、源平勇士の碑が建てられている。これらの碑は、道路拡幅のため度々移転したが、最近此の地に落ち着いた。また、知章の家来の監物(けんもつ)太郎頼方(頼賢)の碑は、村野工業高校正門向側の小さな堂にまつられている。明治初年まで、現村野工業高校辺りは、「小平六池」とも「かるも池」と云う池が、その南(現県警長田警察署)辺りには「大池」があった。池が二つあったので「夫婦池」と呼ばれて西国街道での一つの目標になった。この夫婦(めおと)池のそばへ、人目につきやすいようにと、源平の勇士である平知章、平通盛(みちもり)や、源氏方の猪俣小平六、木村源三則綱、木村源吾重章の碑が建立されていた。江戸後期の儒学者・歴史家である頼山陽(安永9年~天保3年〔1780~1832])が、この街道を往復して「双墳あいのぞむ百年のうれい、右はこれ河州(河内守楠木正成)左は武州(武蔵守知章)」と、忠と孝の代表者をしのんだ詩を詠じている。	兵庫県情報
8	平知章の墓	神戸市長田区 明泉寺町 市 バス 大日寺 前下車	明泉寺という小さなお寺の一角にぼつんとあるお墓は、源平の戦いで敗れた平家の公達、平知章のお墓。平知章は、平清盛の子、知将と名高い平知盛の長男。(平知盛は壇の浦の合戦で「見るべきほどの事は見つ」と言って、壇の浦の水底へと沈む)1184年、平家は一の谷の合戦で源氏の奇襲により敗走していた。そのとき、知章は追ってくる源氏の兵から父・知盛をかばって討死した。このとき知章は16歳。文献によっても違いはあ	兵庫県情報



			るが、平敦盛と同一年だった。この時代の 16 歳といえは成人した立派な大人扱いとはいえ、現在の年齢で考えると 14～15 歳。時代とはいえ、悲しすぎる運命だった。	
9	平盛俊塚	神戸市長田区 名倉町 2 丁目 名倉町バス停 下(松川沿い)	名倉町バス停下(松川沿い)に平盛俊塚がある。平盛俊は、平氏の有力御家人で、父の盛国と同様に、平清盛の側近であった。清盛の政所別当をつとめ、清盛の妾・巖島内侍を妻とした人であった。武勇の誉れがある人であったが、この地で戦死した。小さな敷地に、彼の塚が建てられている。	兵庫県情報
10	平業盛塚 (善光寺)	神戸市兵庫区 会下山町 2 丁目	会下山町二丁目善光寺の境内にある。業盛は、清盛の弟・教盛の末子で、17 才の若武者だったといい、源氏方の泥屋四郎、五郎の兄弟と組んで戦い、討たれてこの地に葬られたと伝えられている。	兵庫県情報
11	平通盛・小宰相の局五輪塔	神戸市兵庫区 松本通 2 丁目	願成寺は住蓮の石塔、源平合戦に討ち死した越前三位・平通盛と夫人・小宰相の局の石塔などとともに松本通二丁目の現在地に移った。	兵庫県情報
12	清盛塚	神戸市兵庫区 切戸町大輪田 橋西隣	清盛橋を渡り、北へ約 50m の所に清盛塚がある。清盛塚前の説明板には、大正 11 年(1922)頃市電松原線の道路拡張工事の際、地下を調べた結果、墳墓でない事が確認されたとある。清盛の遺骨は、遺言により京都からこの近くの寺「能福寺」にはこぼれたが、いまだ、その場所がどこにあったか判明していない。清盛像横には、平敦盛の兄で琵琶の名手であった経正の琵琶塚(もとは前方後方式の古墳石であったもの)が並んでいる。	兵庫県情報
13	福原遷都八百年記念の碑 (荒田八幡神社)	神戸市中央区 荒田町 3	昭和 55 年 6 月 3 日福原遷都八百年を迎え、記念の碑が神戸史談会によって建立された。	兵庫県情報
14	安徳天皇行在所跡(荒田八幡神社)	神戸市中央区 荒田町 3	この地は、平清盛の弟の池の大納言頼盛の山荘(別荘)があった所だと伝えており、治承四年(1180 年)六月三日、福原へ遷都を行った際、この頼盛の山荘に安徳天皇が入られたという。	兵庫県情報
15	宝地院	神戸市中央区 荒田町 3	荒田町三丁目にある薬王山宝地院は、安徳天皇の菩提を弔うため弘安二年(1279)に建立されたという。荒田八幡神社のすぐ南にあり、平頼盛山荘はこの付近一帯の広大な地域を占めていたものと考えられる。	兵庫県情報
16	平経俊五輪塔	神戸市兵庫区 西出町(国道 2 号線の北側)	平経俊は一の谷で有名な敦盛の兄。平清盛の甥にあたる。湊川の合戦の時に一の谷で不利になりこの地までたどり着いたが、名和太郎に討ち取られた。経俊 18 歳、1184 年のことである。この五輪塔が建立された年代は不明であるが、南北朝(14 世紀)の頃と伝えられている。手水鉢や花立に刻	兵庫県情報

			まれた文字を見ると文政年間(1818～1830)に奉納されたことが分かる。	
17	一の谷合戦 800年の碑	山陽須磨浦公園 駅より東に 50m	一の谷合戦 800 年を記念して、地元ライオンズクラブが建立。	神戸市情報
18	静の里公園	津名町志筑 795-01	静は義経が奥州衣川の戦いで討死しすと聞くや世の無情のはかなさに剃髪し、名も再性尼と改め、一条中納言の領地であった志筑の荘(津名町志筑)に移り住み隠遁の日々を義経の菩提を弔うて、ついに建暦元年(1211)47歳で寂しくその生涯を閉じた。	津名町 HP

( 3 ) 奈良県

No	資源名	場所	概要	出典
1	東大寺大仏殿・南大門	奈良市雑司町	治承4年(1180年)の以仁王の挙兵に応じた南都は平重衡に追討された。平氏により焼討ちされた東大寺の復興に源頼朝は尽力し、建久6年(1195年)の大仏殿落慶供養には、自ら数万の軍勢を率いて参加し、法要の間、境内の警護等を指揮した。	奈良県情報
2	東大寺転害門	奈良市雑司町	平家の侍大将であった平景清は、『平家物語』などで悲劇的な英雄として取り上げられている人物で、謡曲「大仏供養」では、東大寺大仏供養に参列した源頼朝の命を狙うが果たせず、再び隠れるといった物語が語られている。また、景清は、転害門に隠れて頼朝を討とうとしたという伝承があり、転害門は一名、景清門とも呼ばれた。	奈良県情報
3	常盤御前の腰掛け石	菟田野町松井	常盤は、源義経の母。平治の乱に夫 義朝が敗れ、三児を抱え、吉野の竜門に身を隠した。さらに、吉野から菟田野町下芳野へ逃げ延びた。下芳野には常盤明神が祀られ、常盤井戸が残っている。	奈良県情報
4	常磐御前と3子の掛け軸	菟田野町の岸岡家	源義朝の平氏に追われた常磐御前と3人の子(今若、乙若、牛若)は一時京から離れて菟田野町に身を寄せた。その時に身を寄せた岸岡家には常磐御前と3人の絵姿が掛け軸となって残されている。	菟田野町HP
5	吉水神社	吉野町、ロープウェイ吉野山駅下車約15分	大物沖で遭難した義経一行は吉野に逃げ込んだ。吉水神社の書院には「義経潜居の間」が今も残っている。隣り合わせの一畳敷きが「弁慶思案の間」である。義経と静は5日間を吉水神社で過ごしたが、義経追討の院宣が発せられ、吉水神社にも長居ができなくなった。このため、義経は静を都に返す決心をする。	奈良県情報 吉野町HP
6	勝手神社	吉野町、ロープウェイ吉野山駅下車約20分	義経と別れた静御前が吉野山中で追手に捕らわれ、請われて舞を舞ったと言われる地。社殿は平成13年(2001)に焼失した。	吉野町HP
7	義経の隠れ塔	吉野町金峯神社境内の坂道を3分下る ロープウェイ吉野山駅下車1時間40分	文治元年、義経がこの塔に隠れ、追っ手から逃れるため屋根を蹴破って外へ出たため、「義経の隠れ塔」、「蹴抜けの塔」と言われている。	奈良県情報 吉野町HP
8	つるべずし(弥助ずし)	下市町下市本町	歌舞伎の「義経千本桜」の「下市村釣瓶鮓や屋の場」で登場する場所。平維盛・源頼朝等にまつわる話。	奈良県情報

9	権太の墓	下市町阿知賀 瀬ノ上	義経千本桜の下市村釣瓶鮎屋の場に登場し、平維盛を助けた権太の墓。	奈良県情報
10	源九郎稻荷神社	大和郡山市洞 泉寺 15.-3	源義経が、兄頼朝の討手を逃れて吉野に落ち延びた時、白狐が側室静を送り届けたので、謝意から源九郎の名を贈り、それが社名の由来といわれている。	大和郡山市 情報
11	當麻曼荼羅厨子	葛 城 市 當 麻 1263	當麻寺本堂（曼荼羅堂）内の當麻曼荼羅を納めた厨子に寄進された中に源頼朝の名があり、当時の曼荼羅信仰の厚さが垣間見える。	葛城市情報

( 4 ) 和歌山県

No	資源名	場所	概要	出典
1	弁慶像	田辺市 JR 紀伊田辺駅前	薙刀を構えたりりしい荒法師姿は、田辺駅に下りた旅行客の注目を集めている。	田辺市情報
2	闘けい神社	田辺市	弁慶の父、熊野別当湛増が源平合戦の折に、どちらに味方するか紅白の鶏を闘わせたという神社。弁慶ゆかりの社宝が収められている。また、境内には、武蔵坊弁慶・熊野水軍出陣 800 年祭を記念して、「湛増・弁慶の像」が建立されている。	田辺市情報
3	弁慶生誕地の碑	田辺市	闘けい神社近くの大福院にある。	田辺市情報
4	弁慶の腰掛石	田辺市、八坂神社	弁慶が少年時代この石に座ったと言われており、お尻の形の窪みができている。	田辺市情報
5	弁慶産湯の井戸・弁慶松	田辺市、田辺市役所前	弁慶産湯の井戸と弁慶松がある。	田辺市情報
6	熊野水軍出陣の地碑	田辺市、扇ヶ浜公園カラー噴水のすぐ近く	弁慶の父である熊野別当湛増が、壇ノ浦の合戦で源氏の見方をするために、文治元年（1185）2 千余人の兵を引き連れて、扇ヶ浜から出陣した史実を後世に残すために建立された。	田辺市情報
7	鈴木屋敷	海南市藤白 468	全国 200 万人と言われる鈴木姓のルーツ。平安時代に熊野から藤代の地に移り住み、ここを拠点として全国に 3300 ある熊野神社を建立し、熊野信仰を広めた。また、奥州衣川で源義経とともに討ち死にした義経の家来の鈴木三郎重家と亀井八郎重清の兄弟もこの地の出身であり、義経が熊野往還には必ずこの屋敷に滞在したと言われていいる。庭園内には義経の弓立て松もある。	海南市情報
8	岩室城跡	有田市	平重盛の末子・平忠房が文治元年（1185）屋島の戦いに敗れて湯浅の荘の地頭・湯浅宗重のもとに身を隠していたところ、各地から平家の残党が集まり 500 余人となった。これを聞いた源頼朝が阿波成長に命じ、1000 余騎をもって攻めさせたが、湯浅氏は岩室の城に立て籠もり、激しい戦いが 3 ヶ月も続いたという。	有田市情報
9	小森谷溪谷護摩壇山	龍神村	平維盛が隠れ住んだと伝えられる「お屋敷跡」、恋人・お万にまつわる「赤壺」「白壺」「お万ヶ淵」、護摩木を焚いて平家の行く末を占ったと伝えられる護摩壇山。	龍神村情報

( 5 ) 徳島県

No	資源名		概要	出典
1	義経ドリーム ロード	小松島市勢合 ～中王子	<p>元暦2年(1185)2月、義経は小松島に上陸し、屋島に向かって進軍していったと言われている。義経ドリームロードは、源氏の白旗を掲げ平氏の士気をたかめたと言われる「旗山」などゆかりの史跡を歩くコースで、延長10kmである。</p> <p>勢合……義経が風雨の中をあちこちの浜に吹き寄せられた軍船を集めて勢揃いした場所            积迦庵            弦張坂……峠の向こうの的を警戒して弓の弦を張って登った坂            弦巻坂……敵兵がいないことを知って矢の弦を巻かせた坂            旗山……兵士の士気を高めるために、小山の山頂に源氏の軍旗(白旗)を掲げた山            天馬石……宇治川の合戦で名馬磨墨と先陣争いをした名馬池月が石に化した、また馬が天から下りて化石になったともいう。この石を踏むと腹痛を起こすといういわれが残る。            弁慶の岩屋……この古墳は千数百年以前にこの地方に住んでいた有力者の墓で、いわゆる横穴式古墳である。この岩屋は強力な弁慶でなくてはできないということで、この地方の人が名付けた。            新居見城跡……近藤六親家の居城で、義経が上陸の際に戦わずにただちに協力し、手兵30騎で屋島へ向けて先導した。            くらかけの岩……春日神社にある。この辺りで勝浦川を渡る準備をした。            中王子神社……この付近から勝浦川を渡り、熊山城を攻めた。</p>	徳島県情報
2	平家屋敷民俗 資料館	西祖谷山村西 岡46	<p>平家の資料や遺品を展示。安徳帝の御典医、堀川内記の子孫代々の屋敷。堀川内記は、平家滅亡の折に一族とともに入山し、薬草の豊富な祖谷の地で、医業と神官を務めた人。庭には、樹齢800年の老樹がそびえ、江戸時代の民家をそのまま保存した館内には、鎧、旗、古文書、生活用具などを展示。</p>	徳島県情報
3	東祖谷民俗 資料館	東祖谷山村字 京上	<p>平家ゆかりの資料をはじめ、古くからこの地に残る貴重な道具、利器の数々を展示。村民が大切にしていた時代の形を見ることができる。東祖谷の歴史に最も雅やかな変化をもたらした平家一族にまつわる古文書、武具をはじめ、「平家落人の里」ならではの資料を展示。</p>	徳島県情報

(6) 香川県

No	資源名	場所	概要	出典
1	船隠し	庵治町船隠	屋島の対岸にそびえる五剣山の西麓にある入江で、源平合戦の際に平家が軍船を隠していたところから地名がついた。	源平屋島合戦 (香川県パンフレット)
2	祈り岩	牟礼町牟礼宮北	那須与一宗高が扇の的を射る時に、この岩に向かって一心に祈ったとされる。バス停前には、半分埋もれた岩が三重、そばに「いの里岩」と刻まれた碑がある。	源平屋島合戦
3	駒立岩	牟礼町牟礼宮北	那須与一宗高が扇の的を射る際、駒を止めたと言われる巨岩。祈り岩の50m河上にあり、潮が引くと頭を出す。	源平屋島合戦 香川県情報
4	洲崎寺	牟礼町牟礼浜北	合戦で源氏が負傷した兵を運び込んだとされる古寺。能登守教経の豪弓に倒れた佐藤継信もこの寺の門扉で源氏の本陣・瓜生ヶ丘まで運ばれたとされ、継信の菩提寺でもある。	源平屋島合戦
5	赤牛崎	高松市屋島東町	屋島の内裏を攻め込もうとした源氏軍が数十頭の赤牛を放って屋島へ上陸する浅瀬を知り、押し渡ったとされる所。	源平屋島合戦
6	菊王丸の墓	高松市屋島東町	平教経の強弓にあたって倒れた佐藤継信の首を取ろうと駆け寄ったところ、継信の弟・忠信に射倒された菊王丸を主君の教経が哀れんで葬ったとされる。	源平屋島合戦
7	安徳天皇社	高松市屋島東町	寿永2年(1183)、一ノ谷で大敗し、屋島に逃げた平宗盛が群司に命じて造営させた幼帝・安徳天皇の行宮跡。	源平屋島合戦 香川県情報
8	佐藤継信の墓	高松市屋島東町	能登守教経の矢面に立ち、主君・義経の身代わりとなって討死した佐藤継信の最期は武士道の鑑であると、寛永20年(1643)初代高松藩主が、合戦当時に義経が丁重に葬ったあとを受けて墓所を屋島寺へと続く遍路道の傍らに移し、建立したもの。牟礼町王墓の王墓池にも義経が葬ったとされる継信の墓がある。	源平屋島合戦 香川県情報
9	義経弓流し跡	牟礼町牟礼浜北	「平家物語」や「源平盛衰記」に描かれた合戦のエピソードである「義経の弓流し」の場。かつては海であった所に、石碑が1本建っている。	源平屋島合戦
10	総門跡	牟礼町牟礼浜西 琴電八栗駅北へ3分	安徳天皇が六万寺を行在所としていた頃、海辺の守りに門を構え、平家の前哨としていた所。現在の衡門は、初代高松藩主・松平頼重公が源平合戦の跡を後世に残すために建立したもの。	源平屋島合戦 香川県情報
11	射落畠	牟礼町牟礼浜西 総門から東へ1分	義経の四天王の一人、佐藤継信が忠死を遂げたところで、昭和6年石碑が建てられた。「胸板をすえて忠義の的に立ち」とその忠死をたたえている。	源平屋島合戦

12	大夫黒の墓	牟礼町牟礼王墓 琴電八栗駅南 へ5分	大夫黒は義経が後白河法皇から賜った秘蔵の名馬で、合戦で自分の身代わりとして討死した佐藤継信の菩提を弔ってもらったお礼に志度寺の覚阿上人に与えられたと言われる。後に、逃れて継信の墓前に倒れ伏したとの伝説があり、その墓は王墓池にある継信の墓の傍らに並び立てられている。	源平屋島合戦
13	屋島寺	屋島山上 山上駐車場南 へ1分	天平勝宝6年(754)、鑑真の建立とされる名刹で四国霊場第84番札所。広い境内に平家供養の梵鐘が今なお成り響く、歴史ある寺。	源平屋島合戦
14	血の池	屋島山上 山上駐車場か ら南へ1分	「瑠璃宝池」とも呼ばれ、源平合戦の再にも義経はじめ源氏軍が血刀を洗ったとされる。	源平屋島合戦
15	談古嶺	屋島山上 山上駐車場東 へ5分	屋島山上の三大展望台のひとつ。眼下に檀の浦が広がり、対岸に五剣山がそびえ立つ。船隠し、義経弓流し跡など合戦の史跡が一望できる。	源平屋島合戦
16	六万寺	牟礼町牟礼白羽 琴電六万寺北 へ15分	寿永2年(1183)9月、都を追われた平家が屋島の造営が完成するまでの間、仮の安徳天皇の行在所とした古寺。天平年間、行基の建立。	源平屋島合戦
17	菜切地蔵	牟礼町牟礼菜切 琴電八栗駅か ら東へ15分	合戦のあいまに弁慶が義経に供す汁をつくるため、野菜を切る際、まな板がわりにしたと言われるお地蔵さん。今も包丁の傷が残り、剛直でユーモラスな弁慶像を思い起こさせる。	源平屋島合戦
18	相引川	高松市屋島東町 琴電屋島駅か ら東へ5分	源平両軍がこの川付近で激戦を繰り広げた結果、勝負がつかずに引き分けたことから名前がついた。	源平屋島合戦
19	義経鞍掛松	高松市屋島東町 JR屋島駅北へ 3分	源氏の大將・九郎判官義経が屋島進撃の途中、鞍を掛けて一休みしたと伝えられる。	源平屋島合戦 香川県情報



(7) 高知県

No	資源名	場所	概要	出典
1	安徳天皇陵墓	物部村高板山	<p>源氏平家の争乱時代に下関の壇ノ浦で平家一門と命運をともにされたと伝えられる安徳天皇は、実は平家から依頼されて京の都から天皇に供奉したお供の案内で屋島の檀の浦から密かに四国路に逃れられて、阿波の東祖谷から土佐に入り、葦生を經由して高板山（皇のいた山に由来するという）の秘境まで辿り着き、その地で崩れられたという。</p> <p>安徳天皇は供とともに、阿波の山中を転々とし、土佐に入られ、久保、笹と移られ、城を造り住まわれた。城の周囲に家来達も住家を造って住み、焼畑をして食糧を作り始めた。しかし、安徳天皇は病気になられ、1186年に崩御された。御歳10歳であった。屋島上陸以来、供奉してきた小松家、門脇家、久保家、藤原家などが揃って「安徳天皇の御葬儀」が行われ、高板山に御濱大明神として祭られたと言われる。平成6年（1994）約400年間その所在さえ分らなくなっていた陵墓が再発見された。墓印として置いたと伝承される母君のかんざしが出土している。</p>	高知県情報 物部村 HP
2	安徳天皇陵墓 参考地	越知町横倉山	<p>屋島檀の浦の戦いで源氏に追われた安徳天皇一行は、阿波の豪族であった田口成良の案内により、阿波国から身を隠しながら四国の山地を西へ転々とし、最終的に土佐国横倉山を安住の地として、23歳で崩御されるまで従臣とともに暮らされたという伝説が残っている。</p> <p>明治初年、越知村戸長として赴任した佐川村の川添亥平が、村人を伴い、伝承の天皇陵墓の所在を探索し、鞠カ奈呂陵墓と思われる所を発見。明治16年（1883）宮内省より、陵墓見込地であるので、保護に留意するようにとの通達を受け、同18年（1885）陵墓領域5町8反5畝3歩（約5.8ha）が確定された。立木とともに宮内省の所轄となって、祭祀、清掃等の経費が支出され、陵墓伝説地と称することになり、さらに、昭和元年（1926）陵墓参考地になった。陵墓は、原生の大小古木が生い茂る中、苔むした111の石段を上った所があり、昭和52年（1977）に宮内庁が改築。石材で二重の玉垣を巡らしている。</p>	高知県情報 越知町観光 HP
3	八坂神社	越知町横倉山	文治3年（1187）8月安徳天皇勸請と伝えられている。	高知県情報 越知町観光 ページ HP
4	杉原神社	越知町横倉山	文治3年（1187）8月勸請。修験道の中ノ宮と称	高知県情報

			<p>していたが、明治4年(1871)に杉原神社と改称した。なお、天皇の従臣80余人が横倉山の各地に祭られ、横倉山の末社となっており、これらの末社は杉原神社隣の「平家の宮」に合祀されている。</p>	<p>越知町観光 ページ HP</p>
5	安徳水	越知町横倉山	<p>行在所跡の側に、清浄な湧き水があり、これを安徳天皇の用水に供したと言われている。その下流を「安徳水」として再現し、昭和60年(1985)、環境庁の「全国名水百選」に選ばれた。</p>	<p>越知町観光 ページ HP</p>
6	横倉宮	越知町横倉山	<p>横倉山行在所にて崩御の安徳天皇を、平知盛が玉室大神として正治2年(1200)9月に中嶽山頂に祭ったのに始まり、修験道の奥の院または本宮と称していたが、明治4年(1871)4月に御嶽神社と改称。さらに昭和24年(1949)12月、神社本庁の通達により横倉宮と改称した。</p>	<p>高知県情報 越知町観光 ページ HP</p>

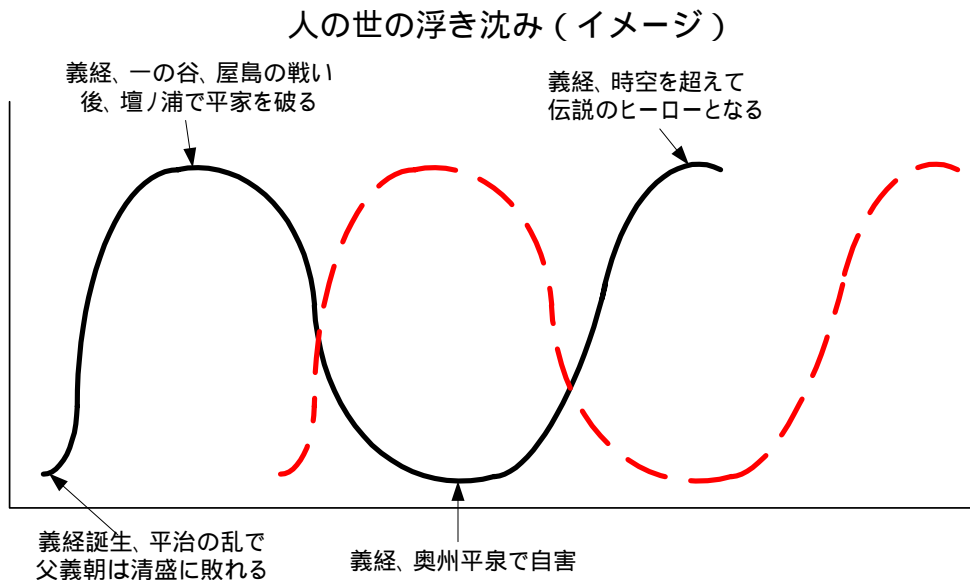
## 5. 紀淡海峡交流圏の源平の道を考える

### (1) 歩いて考えたこと

紀淡海峡交流圏の源平の道を歩いてみて、考えたこと、感じたことを整理すると、以下のとおりである。

#### 人の世の浮き沈みを表わす

平家物語では、平家について「盛者必衰の理を表わす」と説いているが、紀淡海峡交流圏の源平の道を歩くと、これは平家だけに限られることではないことが分かる。義経だけではなく、頼朝をはじめとする源氏にも、公家などにも共通しており、人の世には浮き沈みがあることを教えている。



#### 敗者をいたわる

戦いの後には勝者と敗者が生まれるが、紀淡海峡交流圏の源平の道では、敗れた者や忠義を尽くした者が大切に扱われている。須磨では源氏の武者・熊谷直実により首をはねられた平家の若武者・敦盛が、また屋島では義経の身代わりになって矢を受けた忠臣・佐藤継信がそれぞれ大切にされるなど、各地で敗者へのいたわりの気持ちが表現されている。



## 歴史を後世に伝える

紀淡海峡交流圏では源平の物語を、伝説、食べ物、案内板、道路サイン、イベント、地図、パンフレット等さまざまな工夫で、訪れる人や地域に住んでいる人に知らせる工夫をしている。これらの工夫はただ単に観光客を呼び込むための手段ではなく、地域の歴史や文化を大切にする地域の人々の思いを表現したものであると考えられる。また、源平をテーマに他地域との交流を望む団体も見受けられるため、活動の輪が広がる可能性を示している。



香川県牟礼町では、案内標識が整備されているだけでなく、平家の史跡は赤、源氏の史跡には白を基調とした旗を設置している。



静御前が請われて舞を舞った勝手神社前の食堂では、「静弁当」がメニューに。  
(奈良県吉野町)



神戸市の須磨寺前商店街では「源平ゆかりの地」の記念撮影板を設置



義経の騎乗姿をデザインした案内板、わかりやすい。(徳島県小松島市)



田辺市のイベントで水軍の軍師役をやっている小山裕永さん。他の地域との交流をしていきたいと語る。

## (2) 紀淡海峡交流圏としてできること

今日、国土計画について、これまでの全国総合開発計画に代わり、全国計画とともに全国を10程度のブロックに分けた「広域圏」ごとに地方計画をつくる動きになりつつあるが、紀淡海峡交流圏の「源平の道」は、近畿、四国など一般に「広域圏」と考えられるブロックの範囲を超えて広域交流が歴史的に行われてきたことを教えている。一般に「広域圏」は陸続きのエリアを想定しているが、「源平の道」は海にも道があることを語っている。

この「源平の道」については、現状では主に市町村あるいは府県ごとに情報提供、イベント、学習活動等が行われているが、源平物語の中核を成す紀淡海峡交流圏が「源平の道」をテーマに一体となって取り組むことにより、この圏域の広域交流が一層推進される可能性があるものと考えられる。

「源平の道」への広域的な取り組み方法としてはいくつか考えられるが、紀淡海峡交流圏としては、まずインターネット・ホームページで情報提供を進めることが重要である。この紀淡海峡地域交流研究会の成果として、紀淡海峡交流圏が源平物語の中心舞台であり、源平の物語を巡る上でなくてはならない地域であること、そして圏域が源平をキーワードとしてつながっていることを世に知っていただきたい。幸い平成17年はNHK大河ドラマ「義経」が放送されており、情報提供の時期としてタイムリーであると考えられる。

紀淡海峡交流圏のホームページで源平に関する情報提供を行う際には、以下の点に留意する必要がある。

### ホームページでの情報提供の留意点

#### 源平関連資源情報の紹介

.....各地の源平に関する資源の情報を写真付きで紹介

#### 源平関連活動団体の紹介

.....各地で源平関連で活動している自治体、NPO、グループ等を紹介

#### 源平関連情報源・活動団体とのリンク

.....源平関連の情報源、活動団体のホームページとのリンク

#### 源平史跡・情報についての書き込み

.....源平史跡を訪れた人や源平史跡に関する情報を持っている人がホームページに書き込みできるように工夫

#### ホームページの管理

.....利用者の書き込みへの対応や新情報の更新頻度を増やすなど、利用者の視点に立ってホームページを適切に管理